

第 11 回 十日町“みんなの学校”プロジェクト会議録（概要）

- 1 日時 令和 8 年 6 月 22 日（月）午後 7 時 00 分～午後 8 時 20 分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
 - (1) 委 員 40 名
 - (2) 事務局 11 名 渡辺教育長、鈴木教育文化部副参事、渡邊学校教育課長、長谷川指導管理主事、柳学校教育課長補佐、小林指導主事、徳井指導主事、平野指導主事、田村教育総務課長、中川教育総務課長補佐、田畑教育総務課教育施設係長

4 会議概要

(1) 開会あいさつ（雲尾座長）

昨日、村上市、旧朝日村の高根中学に学生を連れて行った。2000 年に地域の学校が閉校することに伴い、どう活用するかという話し合いをしながら地域活性化を進めていて、5 年程前に地域づくりで天皇杯を受賞している。昨日は、体育館を活用して防災運動会を開催していた。学校がなくなる中で、どうやって地域の活性化を維持していくかを考えて活動している。みんなの学校プロジェクトでよい学校をつくろうという話をしているわけだが、学校の子どもたちを支えるのは地域である。素晴らしい学校ができて、地域の元気がなくなってしまうのは十日町全体としてはよくない形になる。みんながよい学校をつくることを考えながら、地域や子どもたちをどうやって元気にしていくかということを並行して考えなければならない。本日も活発な審議をお願いする。

(2) グループワーク

①説明（鈴木教育文化部副参事）

事前に配布した「第 11 回会議の進め方」をご覧ください。前回、方針（素案）について皆さんから意見をいただきものについて、資料 1 の「意見の反映」欄に見解としてまとめた。それを受けたものが資料 2 の「方針（素案）」（第 11 回会議用）となっている。本日のグループワークは、2 本立てで行う。最初に、前回同様に資料 2 の方針（素案）について意見をいただきたいと思います。方針（素案）のどの部分について意見があるか、意見等記載用紙に記入していただきたいと思います。今回は最終回となるため、この後、座長、副座長から教育長に方針（素案）を提出いただくが、その際に本日いただいた意見も添えてお渡しいただく。そのため、意見等記載用紙は、切り取らずに使用してほしい。2 つ目は、グループワークの後半で、委員の皆さんから方針（素案）やプロジェクト全体を通した感想や意見、思い入れなどを聞かせていただきたいと思います。お手元に配布したポストイットに簡潔に感想等を書いて、模造紙

の一番下に貼ってほしい。2の「今後について」だが、前回も申し上げたが、このプロジェクトで議論いただいた方針（素案）に本日の意見を添えて、今後の定例教育委員会に提案をする。定例教育委員会において協議のうえ、方針（案）としてまとめていく。その後、パブリックコメントや市議会、地域自治組織等への報告、所定の手続きを経て、最終方針として策定することとなる。

②グループワーク テーマ

「資料2：魅力ある十日町市立中学校づくり方針(素案)」について意見出し

③各グループのまとめ（発表）

内容は、別紙「グループワーク意見まとめ」のとおり

(3) 魅力ある十日町市立中学校づくり方針(素案)提出

雲尾座長、庭野副座長から、本日の意見を添えて教育長へ提出

(4) 総括

雲尾座長

1 ページ、(1) 方針の位置づけにあるように、上位計画で市の総合計画があり、その下に教育大綱があり、その下で魅力ある十日町市立中学校づくり方針が作られている。(3) 検討経過は、検討委員会が18回行われ、その提言を受けて、地域で説明した後、このみんなの学校プロジェクトが設置された。市内の皆様から参加していただき審議をしてきた。それを受けて、2 ページ以降、十日町市が目指すべき教育の姿について、皆様の意見を反映させながら展開されている。2 ページに、参考として市内の児童生徒数、幼児数、子どもの数が出ている。現在の中学生、令和8年度 of 中学生が市内全域で1,093人いることに対して、同じ3年間を取った場合、現在の0歳、1歳、2歳、つまり12年後の姿が477名ということで、半分以上であるということがわかる。新潟県全体で見ると、10年後は3分の2になるという数値が県から発表されている。それより先行しているのが十日町市の状態である。少子高齢化は全国どこでも進んでいるが、特に少子化が進んでいることが明らかであり、広い市域がある中で、しかも山間部に加えて豪雪地であるという中で、子どもの数から考えた場合に1校という選択を進めていくことは、ある意味、たくさん課題を持っている課題先進地であるということである。課題先進地の十日町市において、どのような解決策を出していくのか、どのような新しい中学校をつくっていくのか、十日町スタイル、十日町方式として、県外からの視察が来るような先進的なものをつくっていくということがこの方針の中に現れている。その後展開されている内容、授業づくりに関する取組等の項目は、現在の学習指導要領でかなり網羅されており、それを十日町市的にも書き加えている。現在、新しい学習指導要領の審議も始まっている中、十日町市の方針の中にある項目も同じように盛り込まれているので、10年、15年は必ずこの方針が生きていく。今、中学校は

35 人学級が始まった。これから合併が進んでいくが、10 校のままだと 40 人学級が 35 人学級になっても 30 人学級になっても、1 学級で変わりがないという学校が多い。1 学級の定員の人数が変わり影響があるというところは、ある程度子どもたちが集まっている学校である。今 35 人学級が進んでいるが、10 年後までに国にお金があれば、文部科学省に力があれば、もう一段減っているかもしれない。そのようなときに、耐え得る新しい学校をつくり、そして、その学校で次の次の学習指導要領を踏まえて、新しいことを展開していくことが必要だと考える。皆さんの懸念がある通学方法、これまでの体制で耐えられるのか、地域と中学校との結びつきなど、そのような点については逆に言うと 10 年間は考える時間があるということである。学校の間所も正確に決まっているわけではないので、大まかな場所を考えながら通学方法を検討していき、場所がはっきりと決まった際、再度検討するという時間は取れると思う。学校が閉校する地域においては、学校が遠くなる。新しい中学校は市内全域が学区になるということであると、全てが学びの場、学びの場が非常に広がるという形になる。そうすると、子どもたちの学びに何を提供できるのか。その地域で暮らしてきたことの証や、そこで働いてきたという話もある。そのようなことを後世に伝えていくことはとても大事なことである。その地域がある話、自分たちが生きてきた証をしっかりと伝えていくことも大人の責務であり、新しい中学校に積極的に関わっていくこと自体、地域の責任として、大人の責任としてあるのではないかと思う。そのようなことを、今後 10 年程度の中でしっかり見据えていけるように地域づくりをさらに進めていくことも、実は中学校づくりの方針の裏側で並行してやっていく重要なことだと考えている。全体を通して、皆さんの意見を反映したしっかりした素案ができていると思うので、これらを基に教育委員会では一層実のあるものをつくっていただきたい。

庭野副座長

11 回、1 年近く会議があり、今日素案を教育長にお渡しした。これで我々の役目は一応終わりになるが、実はこれで終わりではない。皆さんでつくった素案なので、実現するまでちゃんと見ておかないといけないと思う。これが実現するよう、協力するのも我々の役目だと思う。よろしく願いたい。

(5) 閉会あいさつ（渡辺教育長）

皆さん、お疲れ様さまでした。ありがとうございました。1 年間、会議をほとんどの方が休まずに出席いただき、素晴らしい会だったと思っている。子どもたちのためにどういう学校をつくるかというアイデアを持ち寄っていただき、その結晶が今日先ほど頂戴したこの素案とご意見である。本当にずっしりと重い。50 人の皆さんの意見を積み上げる形でこの素案ができあがっている。おっしゃったとおり意見にならなかった、あるいは自分の思うような方向じゃないことも書かれて

いる、そういう内容かもしれないが、どこかに必ずそれぞれの皆さんの意見はしっかりと入っている。毎回参加して、十分私も実感している。皆さんの思いをしっかりと受け止め、子どもたちにとって本当によい学校づくりをしっかりとしていきたいと思う。現実かなり厳しいという数字の話もあった。令和7年に生まれた子どもは135人である。12年後に中学校に上がる時、十日町市の中学校に上がれてうれしいと思う学校づくり、これを全力で取り組むので、皆さんからはそこまでいろいろな形でご支援、ご協力を賜りたいと思う。皆さんとのつながりはこれからも続けていきたいので、これからもよろしくお願いしたい。